

ワクチンについて

今年度のインフルエンザワクチン、新型コロナワクチン定期接種の時期となりました。

10/16より当院でも接種を開始しました。

今回はワクチンについてお話をしたいと思います。

ワクチンのはじまり

今から約200年前、感染力が強く致死率も高い天然痘に対して、牛痘でできた水疱の液体を接種することで天然痘にかからなくなることを発見し、これがワクチンのはじまりと言われています。

ワクチンの役割

弱毒化または無毒化した病原体(ワクチン)を体内に入れることで、あらかじめ抗体を獲得します。その後病原体に感染しても、感染や感染しても重症化を抑えることができます。

当院で扱っているワクチンの種類

- ◇インフルエンザワクチン
- ◇新型コロナワクチン ◇帯状疱疹ワクチン
- ◇肺炎球菌ワクチン ◇B型肝炎ワクチン
- ◇A型肝炎ワクチン ◇破傷風トキソイド

一部をご紹介します。

◆インフルエンザワクチン

冬季に流行する季節性インフルエンザに対し、毎年流行株を推測し作成されたワクチン。例年10月頃より定期接種(65歳以上の方など)が開始され、流行期の12月頃までに接種することで、12月末-3月の流行期に効果を発現できます。

今年度は全国的に流行が早く、9月末よりインフルエンザが流行し始め、現在も猛威を奮っています。早めのワクチン接種で予防しましょう。

◆新型コロナワクチン

新型コロナウイルスは、一時期の大流行からはある程度下火になってきましたが、ウイルスは形を変えて(変異株)、現在も継続的に発生しています。新型コロナによる死亡数はインフルエンザによる死亡数を上回っており(2024年)、引き続き注意が必要な感染症です。

新型コロナによって重症化する割合は、65歳以上の年代で高くなるため、65歳以上の方と60-64歳の一定の基礎疾患のある方を対象に定期接種を実施しています。(詳細は各自治体HPをご確認ください)

当院では現在、ファイザー製薬のmRNAワクチンを採用しており、電話予約にて実施しています。

◆帯状疱疹ワクチン

帯状疱疹を予防するワクチン。

帯状疱疹は、免疫が低下したり、加齢により抵抗力が落ちたりすることによって、潜伏する帯状疱疹ウイルスが再活性化することで発症します。

発疹、神経痛の症状があり、神経痛は発疹改善後も長期間継続することがあり、日常生活に支障をきたすこともあります。帯状疱疹ワクチンはこれら症状を軽減する作用があります。

帯状疱疹ワクチンには、生ワクチンと不活化ワクチンがあります。当院では不活化ワクチン「シングリックス®筋注用」を採用しており、予約にて実施しています。50歳以上が接種可能で、2ヶ月以上間隔をあけて2回接種します。

令和7年度より65歳以上の方などを対象に帯状疱疹ワクチンの定期接種が始まっています。

2025年度から2029年度までの5年間の経過措置として、その年度内に70、75、80、85、90、95、100歳となる方も対象となります。

(詳細は自治体のHPをご確認ください)